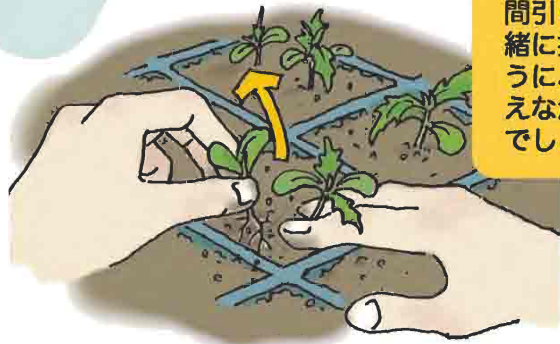


# 苗を育てよう

## 3 <sup>まび</sup>間引き

トレイの一区画から複数の葉（子葉）が出てきたら、生育状態の悪いほうの苗を、優劣が無いときは中央にある苗を残して間引くようにします。



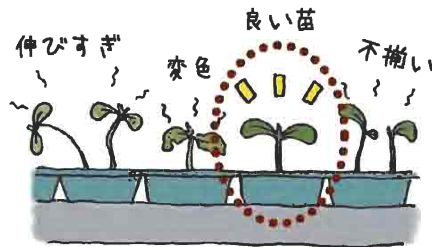
間引く時に残す苗が一緒に持ち上がらないように、指先で土を押さえながら間引くといいでしょう。

発芽して最初の葉っぱが「子葉(双葉)」

子葉の次に出てくる葉っぱが「本葉」



### 良い苗の見分け方

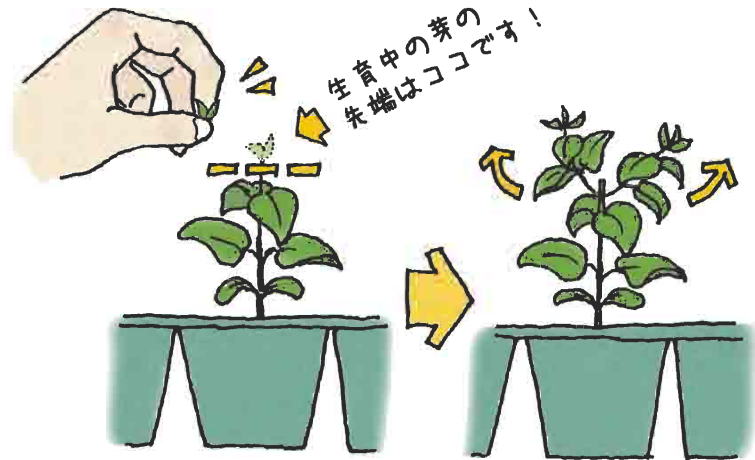


### ワンポイントアドバイス！

肥料が含まれていない土の場合、本葉展開後に1週間に一度2,000倍に薄めた液肥を水やりの代わりに与えましょう。肥料の与え過ぎは生長を阻害してしまうので、濃度に注意してください。

## 4 <sup>てきしん</sup>摘心 (ピンチ)

苗のボリュームを増やし、姿を美しくするために「摘心 (ピンチ)」を行います。摘心は生育初期に芽先（芽の生長点）を摘み取ることで、すぐ下から複数のわき芽が出てきてボリュームが増え、姿が美しくなります。



何度か行うことで自分好みのボリュームにすることが可能です

### ワンポイントアドバイス！

例えば、マリーゴールドは本葉が4組ほど出揃ったら、ペチュニアは草丈が7~8cmになったら摘心しましょう。

# 苗を育てよう

## 5 はなめ 花芽 (つぼみ) を摘む

苗を植えつけるまでは、花芽 (つぼみ) ができたら取り除きます。花を咲かせるのに使う養分を苗全体の生長に使うことができ、丈夫な苗に育ちます。



### ワンポイントアドバイス！

一度花芽を摘んでしまうと、次の花芽ができるまでに時間がかかるので、花芽を摘むのは植えつける1週間前までにしましょう。

## 6 ていしょく 苗を植えつける時期(定植)です

トレイ内に十分に根がまわる頃が植えつけ (定植) の時期となります。目安としては、晩霜の心配がなくなる5月20日以降 (その年の気候によって変動しますので注意してください) が植えつけの適期となります。



# 苗を植えよう

## 1 植えつけ（定植）の準備

植えつけ（定植）の前に植える場所や器を準備しておきましょう。



苗が大きき育ったら一回り大きな鉢やプランター、花壇などに植えつけます。



例えば...こんな鉢・プランターがあります。

## 2 土づくり

土づくりは花づくりの基本です。今まで何も植えられていないような所や、土が固くなっているような所は、土壌改良が必要です。

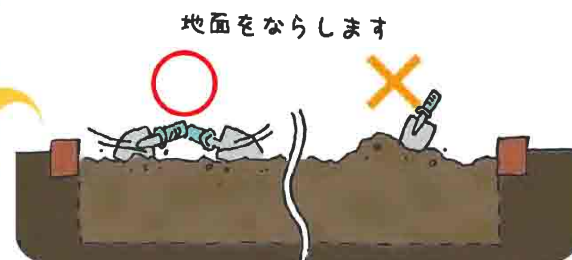
30cmくらい掘り起こして耕し、柔らかくします。雑草や木の根、石などは取り除きます。



腐葉土やピートモス等を、1㎡あたり20リットル程度よく混ぜ合わせます。水はけが悪ければ火山礫等を入れます。堆肥や石灰、有機肥料等を入れる場合は、植える2～3週間前に混ぜておきましょう。



植えつけ時は土をならし、緩効性肥料※を入れるとよいでしょう。



ワンポイントアドバイス！👍

※緩効性肥料とは、与えた時から肥料効果があらわれ、長期間効果が持続する肥料のことをいいます。

# 苗を植えよう

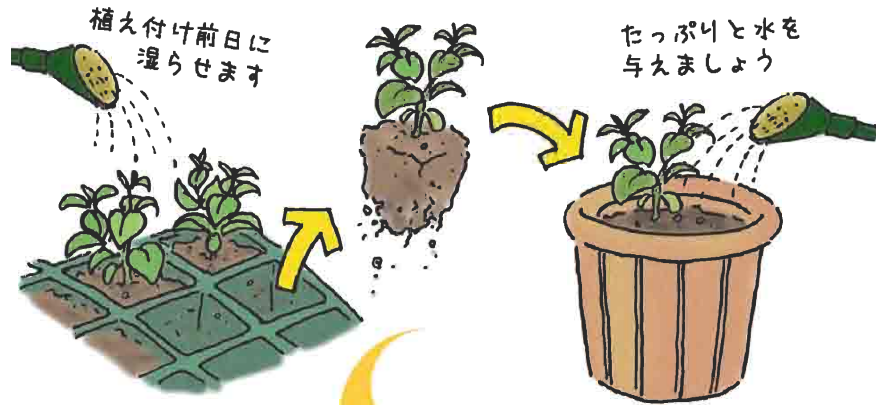
## 3 苗の植えつけ

植えつける時は小苗、ポット苗等が乾いていたら根鉢が崩れてしまうことがあるので、前日にたっぷりと水をやって湿らせておきます。

苗と苗の間は20～25cm程度とし、花の大きさやデザイン、苗の数で調整しましょう。

植えつけ後は、苗が土になじむように水をたっぷり与えます。その際、苗に水がかからないように根元に与えましょう。

### 植えつけの基本

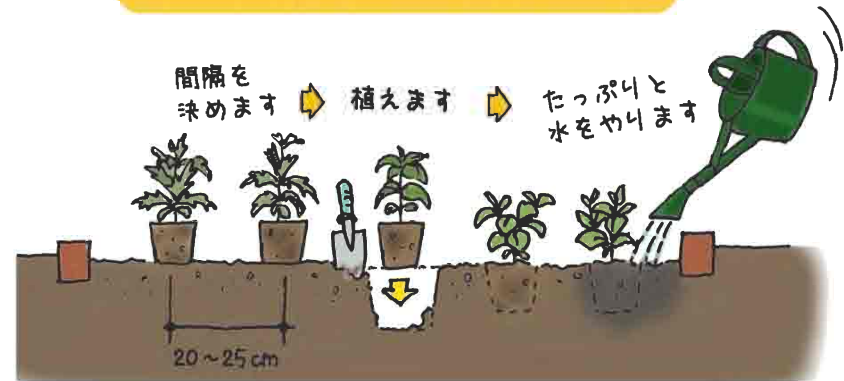


根がまわりすぎていたら底の部分や横をほぐしたりしてから植えましょう。

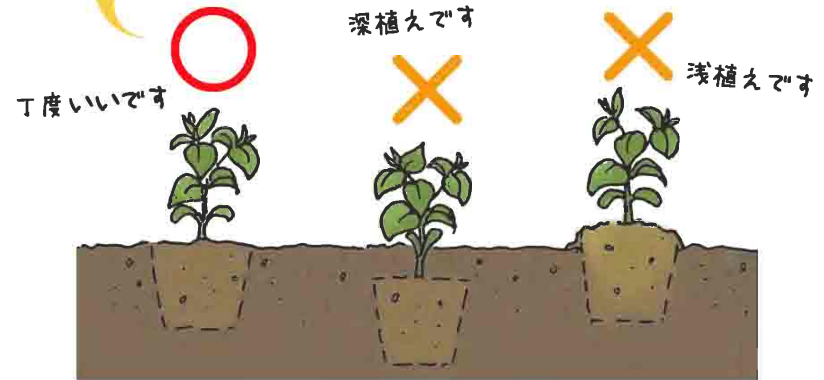
### ワンポイントアドバイス！

咲き終わった花がらや黄ばんだ古葉などは取ってから植えましょう。

### 花壇・植樹ます・植樹帯への植えつけ



植えつける深さは、苗の地際（根元）の表面と花壇の土の表面が同じになるように植えます。深植えになったり、逆に水をやったときに周りの土が沈んで苗の根鉢の部分が浮きでてしまうような浅植えにならないように注意しましょう。



準備

発芽・生育

開花

摘みとり

花が終わった後の管理